

平成 30 年 6 月 9 日現在

機関番号：34428

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2017

課題番号：26570024

研究課題名（和文）グローバル化の中の文化観光：クリエイティブ産業と観光の政策統合に関する国際比較

研究課題名（英文）Cultural tourism under globalization: international comparison on policy integration of creative industries and tourism

研究代表者

後藤 和子 (Goto, Kazuko)

摂南大学・経済学部・教授

研究者番号：00302505

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：文化観光の研究は、日本では、まだ緒についたばかりである。本研究では、海外研究者との交流を通じて、観光統計、文化サテライト勘定、旅行・観光サテライト勘定や文化観光研究の国際的水準と課題を知ることができた。

また、2017年には、Springerから、共編著でTax incentives for the creative industries を刊行した。この本は、文化観光の資源となる文化産業への税制インセンティブに光を当てたものである。更に、地域デザイン学会で招待講演を行うとともに、日本地域経済学会の学会誌『地域経済研究』に「観光と地域経済 文化観光の経済分析を中心に」等の論文を発表した。

研究成果の概要（英文）：Research on cultural tourism starts recently in Japan. This project started to know the issues on tourism statistics, satellite accounts for culture, and satellite accounts for tourism.

Films, museums, cultural heritages, and other cultural activities attract tourists and strengthen city image. Governments support culture and creative industries by subsidy and tax incentives. Prof. Hemels and Goto published Tax incentives for the creative industries (Springer) in 2017. Moreover, Goto was invited as a guest speaker several conferences including the international symposium, and wrote several papers on cultural tourism. One of them is 'Cultural tourism and regional economy; Focusing on the economic analysis of cultural tourism' in the Journal of Annals of the Japan Association for regional economic studies.

研究分野：文化経済学、観光学、経済政策

キーワード：文化観光 観光政策 クリエイティブ産業 観光の高付加価値化 工芸産業 文化への税制インセンティブ ホテル税 文化遺産と観光

## 1. 研究開始当初の背景

研究を開始した2014年は、訪日外国人旅行者数も増加し始めたばかりであり、観光に関する経済学的研究も本格的に行われていなかった。観光統計や、旅行・観光サテライト勘定、位置情報を使った観光行動の分析等も緒についたばかりであった。

海外では、いち早く観光産業の振興に取り組み、文化目的の観光客の滞在日数や消費額が多いことに着目し、文化観光の経済分析も行われてきた。更に、ホテル税(宿泊税)の一部を文化の育成に充てる等、地域内における文化と観光の資金循環の仕組みも作られてきた。

文化観光における消費が、地域のクリエイティブ産業に波及すれば、地域経済の再活性化に大きな効果を持つといえる。

そのため、この研究は、日本における観光研究、観光政策の空白を埋めることを目指した。

## 2. 研究の目的

文化観光に関する国際的な研究水準を明らかにする。文化観光の需要面と供給面に着目した研究の全体像を把握する。

文化(世界遺産登録等)が観光に与える影響、観光が文化(美術館の観客が増加する等)に与える影響の両面について、国内及び海外のケーススタディを行う。

文化観光が、工芸等のクリエイティブ産業振興につながるか、国際比較を行う。

観光とクリエイティブ産業への税制インセンティブの現状と有効性について明らかにする。

## 3. 研究の方法

国際学会大会等での研究情報の収集や、国際ワークショップ等を通じて、海外研究協力者から専門的知見の提供を受け、文化観光に関する国際比較研究を行う。

特に、文化経済学分野の実証研究の日本への適用を試みる。

国内及び海外で、文化観光に関するケーススタディを行う。ケーススタディを通じて、文化観光の政策課題を明らかにする。

税制インセンティブに関しては、エラスムス大学のヘメルス教授と共同研究を行う。クリエイティブ産業への税制インセンティブの理論的根拠、営利組織への税制インセンティブの効果等を、理論的・実証的に分析する。

## 4. 研究成果

ケーススタディを通じた課題の発見

### <国内>

・2015年には、オランダや中国との交易の歴史を生かした文化観光に取り組んでいる長崎市を訪問し、離島の観光振興に取り組んでいる県職員にヒアリングを行った。

・日本には、世界遺産が19か所(2015年)あるが、観光につながるケースと必ずしも観光に繋がらないケースがある。また、世界遺産に登録された年は、観光客が増加するが、翌年には半減するなど、持続性に課題がある。2015年には、世界遺産に登録されたばかりの八幡製鉄所と、すでに登録されている厳島神社を訪問した。

自然遺産や文化遺産をどのように保護し、観光振興に生かすのか、その財源をどうするのかは、日本ではまだ十分に確立していない政策課題であることが分かった。八幡製鉄所は操業を前提としているため近づくことができない。厳島神社も宮島全体の景観という観点では課題もあるように思う。文化遺産や景観の保護と観光との両立を実現する政策が求められる。

・2018年3月には、陶磁器産地である長崎県波佐見町を訪問し、ヒアリングを行った。波佐見焼は、日本で3番目に生産量が多い陶磁器である。2007年に有田焼から独立して波佐見焼の産地表示を開始、同時にまちづくりと観光にも力を入れてきた。産地商社、窯元、行政が一体となってどのような取り組みを行ってきたのか分かった。

観光とクリエイティブ産業の関係を考える上で、示唆に富む内容であった。

### <海外>

・2015年3月には、ロッテルダム市とアムステルダム市を訪問し、シティ・ブランディングと観光、ミュージアムのデジタル化と観光、という2つの観点から、ロッテルダム市の職員や研究者にヒアリングを行った。

・2015年6月、スペイン・ビルバオを訪問し、文化経済学会理事会主催のワークショップに参加した。ビルバオは工業の衰退による都市中心部の荒廃を経験したが、1997年に誘致したグッゲンハイム美術館が世界的な注目を集め、文化関連産業や観光産業が発展した。

文化は、観光のみでなく衰退地区の再生と社会包摂にも活用された。ワークショップでは、美術館による観光産業への効果の持続性が議論された。ビルバオの美術館による観光効果は20年続いていること、データを用いた実証分析でも持続可能であると結論づけられた。

・2016年2月に、イタリアのミラノ市、レッジョ・エミリア市等を訪問し、ファッション産業(マックスマラーラ本社)へのヒアリングを実施した。ファッションブランドのグロー

バル展開と戦略について知るとともに、ファッション産業と都市観光について理解を深めた。

#### 国際共同研究の成果

・近年、映画等の視聴覚産業の振興により、地域イメージを高め地域をブランディングすることで、地域経済や観光への波及を図る政策が行われている。映画等の文化産業振興の政策手段としては、補助金のみでなく税制インセンティブが多く使われている。

ヘルムス教授(エラスムス大学)とともに、税制インセンティブ導入の経済学的根拠や、税制の効果について、理論的・実証的に分析を行った。その成果は、2017年1月に、Springer から、*Tax incentives for the creative industries*, として刊行された。

・上記の研究に関連して、2016年6月にスペイン・バリャドリッド大学で開催された第19回国際文化経済学会大会において、Goto, K.(2016)Tax incentives for creative industries: Do they stimulate creativity and diversity?という単独論文の発表も行った。

・2017年3月には、カタール大学から、Rizzo, I.教授を招聘し、The economics of cultural tourism, Theory, Practice and Policy をテーマに国際ワークショップを開催した。文化観光に関する経済学的研究は、文化観光の需要面と供給面から行われる必要がある。

需要面では、文化目的で観光する人たちの滞在日数や消費額、属性等が分析されている。供給面では、文化遺産登録という供給サイドの変化が、観光需要を増加させるかどうか分析されているが、実証研究の結果は両義的である。

観光が文化に及ぼす効果に関しても興味深い研究が行われている。欧米では、観光客の増加が劇場や美術館等の大きな財源となっているという実証分析がある。日本では、まだ、こうした観点からの分析はなく、今後の研究課題である。

・2018年3月には、エラスムス大学・ロッテルダム(オランダ)で開催された工芸産業に関するシンポジウムで発表を行った。

日本は、工芸を無形文化遺産として保護するとともに、伝統的工芸品産業の振興政策も行ってきた。無形文化遺産政策の中の「人間国宝」は、海外でも有効な政策手段として注目されている。日本の伝統技術がイノベーションの源泉となり、新たな製品を生み出しているケースもある。

しかし、総体的に見れば、伝統的工芸品の生産高はピーク時の4分の1にまで減少している。そのため、無形文化遺産政策と伝統的工芸品産業政策だけでは、限界があるといえる。

工芸産業振興はどうあるべきか、また、観光により、日本の地域工芸産業が再活性化されるかどうか、工芸各分野の実証研究を踏まえた政策転換が必要である。

この研究会と関わる論文も執筆しており、国際共同研究として刊行される予定である。

#### 国内研究に対する貢献

・国内の異なる学会で招待講演や、論文発表を行った。

文化経済学会<日本>では、文化観光の経済分析に関して発表を行った。また、地域デザイン学会に招待され、「文化観光と地域デザイン」という講演を行った。更に、日本地域経済学会では、学会誌の企画特集として「サービス産業と地域経済」を取り上げ、その際、医療や不動産とともに、観光を取り上げた。研究代表者(後藤)は、本研究を踏まえて、「観光と地域経済 文化観光の経済分析を中心に」という発表を行い、論文が学会誌に掲載された。

・2016年1月には、琉球大学の研究プロジェクト「現代グローバル社会における自律的島嶼社会モデルの構築と実践」に招待され、講演を行った。文化遺産の消滅に関するレッドリストや、無形文化遺産の継承に関して議論を行った。沖縄の観光を、文化遺産の持続性と結びつけるモデルの構築が必要である。また、そのモデルを機能させるための政策的介入に関しても研究が必要であることが分かった。

#### 今後の課題

ケーススタディのところでも触れたが、文化と観光の両立に関しては、日本では、ほとんど研究されていない。2017年以降、政府は、文化財を観光に生かす、あるいは「文化で稼ぐ」等を政策目標に掲げるようになった。

しかし、従来 of 文化財政策では、十分にその目的が達成できないとして、文化財保護に関する国と地方の役割を変更する等、様々な改革を行っている。美術館・博物館等の文化施設にも観光マインドが求められ、そのあり方が大きく変わろうとしている。

しかし、文化施設は、文化を目的とした非営利の組織原理で運営されてきたし、観光はビジネスであり営利組織の原理を持つ。この2つの異なる原理を、どのように両立させていくのかは、簡単なことではない。観光客の増加による様々な問題も起きている。

ホテル需要の急増により、都市中心部の土地や賃料が高騰し、住民の流出や景観の悪化、生活の質の低下が起こった欧米では、持続可能な文化観光に関する研究も行われている。

日本でも、今後、こうした観点からの研究が必要である。日本では、観光からの収入であるホテル税は、観光目的に使うとされ、観光標識等のインフラ整備に使われてきた。し

かし、アメリカ合衆国のいくつかの州では、ホテル税の一部を、非営利の小さな文化団体に配分し、実験的な文化を支援する政策が行われている。実験的で小さな文化が成長すれば、観光客を呼び込むという循環を見込んでいることである。

文化と観光の好循環を生み出す税制の設計に関する研究も、今後の課題である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 13 件)

後藤和子、グローバル化の中の東京と地方都市 クリエイティブ産業の視点から、地域経済学研究、招待論文、第 28 号、2014、26 - 32

後藤和子、世界の創造的都市とその評価指標、都市計画、招待論文、Vol.64No.1、2015、48 - 53

後藤和子、書評：佐々木正幸・川井田祥子・萩原雅也編著、創造農村 過疎をクリエイティブに生きる、文化経済学、査読無、第 11 巻第 2 号、2014、47-49

後藤和子、書評：岡田洋祐・林秀弥編著、クラウド産業論 流動化するプラットフォーム・ビジネスにおける競争と規制、文化経済学、査読無、第 12 巻第 1 号、2015、109 - 113

後藤和子、書評：枝川明敬著、文化芸術への支援の論理と実際、文化経済学、査読無、第 12 巻第 2 号、2015、94-95

後藤和子、文化と経済 イノベーションと文化多様性、琉球大学国際沖縄研究所編：現代グローバル社会における自律的島嶼モデルの構築と実践、査読無、2016、237 - 243

後藤和子、書評：刈谷剛彦編著、地元の文化力 地域の未来の作り方、文化経済学、査読無、第 13 巻第 1 号、2016、62 - 65

後藤和子、クリエイティブ産業と著作権 経済学的アプローチと国際的研究動向、文化経済学、査読有、第 13 巻第 2 号、2016、17 - 23

後藤和子、書評：山崎茂雄著、古民家再生の経済学、査読無、文化経済学、2017、50 - 52

後藤和子、私の租税教育論、税務弘報、査読無、第 65 巻第 2 号、2017、84 - 87

後藤和子、文化観光と地域デザイン、地域デザイン、招待講演論文、Vo.11、2018、267 - 274

後藤和子、書評：山田浩之編著：都市祭礼文化の変容を考える ソーシャル・キャピタルと文化資本、文化経済学、査読無、第 14 巻第 2 号、2017、65 - 68

後藤和子、観光と地域経済 文化観光の経済分析を中心に、地域経済学研究、査読無、第 34 巻、2018、41 - 47

[学会発表](計 8 件)

Mignosa, A., Goto, K. (他 4 名) An economic analysis of craft, The 18th International conference on cultural economics, 2014 年 6 月 25 日, UQAM University, Montreal,

Goto, K., and Cho, M., Public digital libraries and cultural policy: A case study of Singapore Memory Project, International conference on cultural policy, 2014 年 9 月 10 日, Hildesheim University,

後藤和子、クリエイティブ産業と著作権の国際動向、文化経済学会<日本>年次大会、特別セッション招待講演、2015 年 7 月 4 日、駒澤大学

Goto, K., Tax incentives for creative industries, The 19th International conference on cultural economics, 2016 年 6 月 22 日, University of Valladolid,

後藤和子、変化する文化支援の論理 クリエイティブ産業の税制インセンティブを中心に、文化経済学会<日本>年次大会、2016 年 7 月 3 日、大阪樟蔭女子大学

後藤和子、文化観光の経済分析 その現状と政策へのインプリケーション、文化経済学会<日本>年次大会、2017 年 7 月 2 日

後藤和子、文化観光と地域デザイン、地域デザイン学会、招待講演、2017 年 9 月 2 日

Goto, K., Craft as creative industries-A case study for Japan, International symposium of craft, 2018 年 3 月 1 日

〔図書〕(計 3 件)

スロスピー著/後藤和子・阪本崇監訳、ミネルヴァ書房、文化政策の経済学、2014、303

後藤和子他、ミネルヴァ書房、文化経済学 軌跡と展望、2016、381

Hemels, S., and Goto, K., Springer, Tax incentives for the creative industries, 2017, 245

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

後藤和子 (GOTO, Kazuko)  
摂南大学・経済学部・教授  
研究者番号：00302505

##### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

##### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：

#### (4) 研究協力者

Hemels, S. エラスムス大学教授  
Klamer, A. エラスムス大学教授  
Rizzo, I. カターニャ大学教授  
Mignosa, A. カターニャ大学講師